



刻歩極頂

長井市立西根小学校
学校だより第14号
令和5年11月28日

「刻歩極頂」(こくほきょくちょう) 一歩一歩の歩みを大切に 頂上にたどり着く
長井市初代名誉市民 孫田 秀春 博士 揮毫

学校研究発表会「主体的に学ぶ子供の育成」

11月17日(金)、西根小学校を会場にして「学校研究発表会」が開催されました。ご来賓の方々
と長井市内の60名を超える先生方、さらに茨城県結城市の校長会のご参観をいただきながら、2年
生と6年生の国語の研究授業を行いました。

2年生は、おもちゃの作り方について友達と話し合い、説明書を分かりやすく順序立てて書く、と
いう授業でした。分かりやすい説明書をつくって1年生に渡すことを目標に、子供たちは意欲的に話
し合い、説明書づくりに取り組むことができました。

6年生は、教科書の「鳥獣戯画」の絵の提示の仕方について、アニメーション映画監督である筆者
が「鳥獣戯画」の魅力を伝えるために工夫したことだと捉える、という授業でした。一人一人が自分
の考えを書いてから友達と交流し、考えを深めることができました。自分の考えの変容を書くことが
できた振り返りも素晴らしかったと思います。

これらの授業と西根小の研究について、山形大学の先生や長井市教育委員会指導主事、参会された
先生方から、貴重な助言を数多くいただくことができました。

これからの時代、子供たちは、高い志や意欲を持つ自立した人間として、伝統や文化に立脚しながら
も、他者との協働し、持続可能な社会の創り手として、未来を切り拓いていくことがますます求められ
ます。まさに、主体的に学び、主体的に未来を切り拓いていく人間の育成が求められます。

そのような思いを強くもち、本校の研究主題「主体的に学ぶ子供の育成」を目指し、教職員が日常
的に学び合い、高め合い、切磋琢磨しながら、授業改善に取り組み続けたいと考えております。



2年「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の授業



研究発表(本校研究主任)



6年「日本文化の魅力を発信しよう」の授業



講演会

12月の予定

1	金	委員会活動⑧	11	月	授業研修会	21	木	2学期終業式
2	土		12	火	全校漢字テスト 教育座談会反省会	22	金	冬季休業（～1／8）
3	日		13	水	通学班会	23	土	
4	月	ALTalk Day②	14	木	学校体験教室①	24	日	
5	火		15	金	委員会活動⑨	25	月	
6	水		16	土		26	火	
7	木	4年人権教育	17	日		27	水	
8	金	6年薬物乱用防止教育	18	月		28	木	
9	土		19	火	いなほ号	29	金	閉庁
10	日		20	水	給食記念日 セレクト給食	30	土	
						31	日	

<ミニコラム> 子供の心とことばを育てるために（その17）

「アイメッセージ(私メッセージ)」について

私の場合ですが、家に帰ってから子供に言いがちな言葉に、次のようなものがあります。

「早く宿題をしなさい」「机の上を片付けなさい」等、これらの場合、隠れ主語は「あなたは」です。教師として子供たちに指示を出す時、よく次のように言います。

「教科書の〇〇ページを開きなさい」「〇〇ページを音読しなさい」等、これらの場合も、隠れ主語は「あなた（たち）は」です。

つまり、どちらも「ユーメッセージ」で、親として教師としてある程度必要な言語指示ではあるけれど、ダイレクトに命令されている印象は否定できません。

これに対して、隠れ主語を「私は」にして話す言い方を「アイメッセージ」（私メッセージ）といい、自分の気持ちを相手に伝えやすい方法です。

カウンセリングの神様カール・ロジャーズの弟子の一人トマス・ゴードンが「親業」「教師業」の中で提唱したコミュニケーションの方法です。

例えば、「ゴミを捨ててきなさい」というユーメッセージの言い方は、アイメッセージに変換すると「ゴミを捨ててきてくれると助かるよ」となります。「助かる」という自分の気持ちを表しただけなのに、その要望を叶えてあげたくなります。

「うれしい」「安心だ」「助かる」だけでなく「悲しい」「寂しい」「悔しい」などのネガティブな感情も伝えやすくなります。相手に対して感情的にならずに、自分の感情を伝えることができるのです。したがって、アイメッセージは子供をほめる時だけでなく叱る時にも使えます。

以前のことで、娘の苦手な持久走大会が終わって、私は娘に「お父さんは、持久走大会であなただの順位よりも自己ベストで走ったことが、何よりもうれしいよ」と言ったら、娘はにっこり。実にいい笑顔でした。（しかし、その後、「でも、応援に来ないじゃん」とつつこまれてしまいました。父として、まだまだですね。）

大きな感情表現はなくても伝わります。子供の小さな一歩、小さな成長を見つけて、「お父さん（お母さん）は、うれしいよ」と伝えてあげてください。笑顔を添えて。